

都道府県別賞一等

母の想いを知った日

青森県 つがる市立柏中学校 三学年

尾野 愛莉

皆さんは、生命保険に加入していますか。

生命保険の仕事をしている母は、生命保険はもしもの時のお守りだと話します。病気をしたり、万が一亡くなった時、その人と家族を守ってくれる、まるでスーパーヒーローのような役割だそうです。私は母に、なぜ生命保険の仕事を選んだのか聞きました。

「お母さんは、生命保険の大切さを一人でも多くの人に伝えたいと思ったの。保険は、健康じゃないとなかなか加入できないのよ。だから、何も保険に入っていない時、ケガや病気をしたらお金もかかるし大変でしょ。」

生命保険に加入する時は、健康状態を告知したり審査があるそうで、誰でもいつでも加入できるものではないそうです。健康状態や経済的事情で、生命保険未加入の人もたくさんいるとのことでした。私の母は、昔病気をしたことで生命保険に入れないこともあり、自分のような人を増やしてはならないという使命感で、生命保険の仕事を選んだと知り母の仕事に対する想いの深さを感じました。

今、新型コロナウイルスという感染症がまん延していますが、ガンになる人も年々増加していて、二人に一人がガンになると言われています。ガンには身体的負担、経済的負担、精神的負担の三つがあり、治療の中には高額な放射線治療や手術もあります。そんな時、保険に加入していることで経済的負担を軽減してくれるのです。精神的負担は、家族や周囲の人のサポートが大切だと思います。母も

「お客さんが健康でいてくれたら私も嬉しい。でも、もし病気をした時、お守りとして加入している保険が役に立ったら、もっと嬉しいの。」と話します。

芸能人がテレビでガンを公表する姿を、よく見かけます。ガンという病気は本当に多くて、身近なものなんだと感じると共に、自分や両親がガンになるかもしれないという不安に駆られました。

「あなたには、しっかりお守りがあるから大丈夫。」

母は私に、生命保険を準備してってくれ、もう中学生なのだからと、内容も説明してくれました。自分が生命保険に入れない分、私には手厚く備えていてくれた母の優しさ。目に見えないはずのお守りが、私にはちゃんと見えました。

## 第60回中学生作文コンクール

生命保険があるからと言って油断してはいけません。規則正しい生活や食事、大人になった時は、ガン検診も大切です。母と話をしたことで、生命保険の大切さを知り、たくさんの人がお守りを持って欲しいと思いました。